

助成年度：2019 年度

[所属] 岐阜大学 応用生物科学部

[役職] 特任准教授

[氏名] 池田 敬

[課題]

岐阜県山岳都市における人間生活と大型哺乳類の関係

[内容]

近年、大型哺乳類の生息数の増加や分布拡大、人身被害の発生が問題となっている。人間との軋轢を緩和するために、人間活動に応じて大型哺乳類が活動や分布を変化させているのかを明らかにすることを目的とする。

本調査は岐阜県の山岳都市である高山市、飛騨市、下呂市、郡上市を対象とし、2019 年 11 月 20 日から 2020 年 9 月 23 日までの間に自動撮影カメラを設置した。人間利用の少ないクラスと比較的多いクラスにおける日周活動や 100 日当たりの撮影頭数の違いを調査した。その結果、シカは人間利用の少ない地域では薄明薄暮、人間利用の多い地域では夜間、イノシシは両クラスで夜間に活発に活動しており、国内外の先行研究と同様の結果を示唆した。一方で、カモシカは人間利用の少ない地域では薄明薄暮と夜間、人間利用の多い地域では一日中活動しており、海外に生息する亜種とは一部異なる日周活動を示し、人為的攪乱が影響を与えている可能性を示唆した。100 日当たりの撮影頭数は、シカでは人間利用の少ない地域で有意に高かった一方で、イノシシとカモシカ、ツキノワグマでは両クラス間で有意差が見られなかった。

以上の結果、車両と野生動物の衝突事故、観光客とツキノワグマの人身事故を防ぐためにも、周辺地域の撮影状況に応じた適切な注意喚起、くくり罠によるカモシカの錯誤捕獲を防ぐためにシカやイノシシが生息している地域での適切な捕獲手法の選択、カモシカの分布管理を進めていくためにも、保護地域外における正確な生息状況モニタリングの必要性を提言することができる。